4　雹（ひょう）害

（1）災害の実態と様相

降雹は雷雨を伴うことが多いので，雷雨の発生回数の多い地域ほど，雹害を受けやすい。降雹は4-9月の間に多く，5-6月が最も多い。被害の範囲は他の気象災害に比べて小さく，帯状に発生することが多い。短時間で被害が発生するので，予知も難しいとされている。

雹害は作物の葉や花，果実に機械的に損傷を与えるもので，雹の大きさが大きいほどまた降雹時間が長いほど被害は大きくなる。葉の広い種類や果実，花をつけた状態で被害が大きい。被害は落果，落葉，茎葉や花の裂開，破砕，裂傷，打撲，折損，倒伏などで，特殊な場合には堆積した雹によって凍害が発生することがある。

（2）災害対策

降雹の多い地域ではスイカ，キュウリ，レタス，ハクサイなど被害を受け易い種類を作付しないようにする。雹の機械的損傷を防ぐには網目1.5-2cmの網を張るのがよい。しかし野菜では採算の合わないものが多い。被害後は回復の見込みのある場合は幼果や花蕾は摘除し，速効性の肥料を施用すると共に，病害虫の防除を十分に行い草勢の回復につとめる。